土木学会コンクリート標準示方書の訂正について

昭和33年7月

土木学会コンクリート示方書改訂委員会

委員長　吉　田　徳　次　郎

土木学会コンクリート標準示方書は昭和31年11月に制定されましたが，その後内容全般にわたり，さらに調査を進めましたところ，若干のカ所を訂正する必要が認められました。訂正カ所は次のようであります。

註：本訂正表の別刷を用意してありますから希望者は申出て下さればお送りします。

無筋コンクリート標準示方書

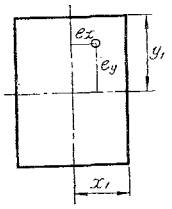
ページ	行	旧	訂　　正
5	下から 2,3	注入コンクリート	プレパックド コンクリート
9	15,16	まだ固まらないコンクリートまたはモルタルにおいて，ブリージングに伴ない，その表面に浮び出て沈でんした微細な物質をいう。	ブリージングにともない，コンクリートまたはモルタルの表面に浮び出て沈でんした物質をいう。
10	7	注入コンクリート	プレパックド コンクリート
	7,8	特殊な粒度の粗骨材をつめ，これに	まず特定の粒度をもつ粗骨材をつめ，その空げきに
13	7	いてはならない。	いてはならない。特に耐火性を必要とする場合には，耐火的な粗骨材を用いなければならない。
15	17,18	以上のときは 40 mm ふるいでふるい分け	以上のときは適当なふるいで大小2種にふるい分け
19	3,4	絶対細骨材率および細骨材率	絶対細骨材率
19	表 8	絶対細骨材率　S/A	絶対細骨材率　s/a
19	注(3)	絶対細骨材率のかわりに細骨材率	絶対細骨材率$\left(\frac{s}{a}\right)$のかわりに細骨材率$\left(\frac{S}{S+G}\right)$
20	1	骨材の容積は	示方配合における骨材の容積は
20	9	削除する。従つて（3）から（9）までの番号は（2）から（8）までとなる。	
20	13,16	AE 剤	AE 剤溶液
21	7,8	練り混ぜは，(4) に示した所定の時間の3倍以上これを行なってはならない。	練り混ぜ時間が，(4) に示した所定の時間の3倍以上になつた場合は，一たんミキサの運転をとめなければならない。
24	2	吐き管	漏斗管
24	9	ならない。	ならない。上層の振動締固めをするときは，振動機を下層のコンクリート中に 10 cm 位さし込まれなければならない。
27	13	つなぎ	つなぎ材
30	下から 9	コンクリートの給熱を行う	コンクリートに給熱する
35	7,8,9	注入コンクリート	プレパックド コンクリート
41	8,9	セメントは無筋コンクリート標準示方書7条のポルトランド セメントに，水は無筋コンクリート標準示方書8条に	セメントおよび水は，それぞれ無筋コンクリート標準示方書7条および8条に
42	14	正しく	所定の位置に
42	下から5,6	除き，十分にこれを水でぬらしたのち，圧縮空気を吹き付けて，表面にある水を除かなければならない。	除かなければならない。
43	4,5	安定させておかなければ	これを常に一定に保たなければ
43	7,8	高くし，また圧力は一様で	高くし

鉄筋コンクリート標準示方書

ページ	行	旧	訂　　正
55	10	まだ固まらないコンクリートまたはモルタルにおいて，ブリージングに伴いその表面に浮び出て沈でんした微細な物質	ブリージングにともない，コンクリートまたはモルタルの表面に浮び出て沈でんした物質
56	1	注入コンクリート	プレパックド コンクリート

ページ	行	旧	訂正
56	1～2	特殊な粒度の粗骨材をつめ，これに特殊なモルタルを……	まず，特定の粒度をもつ粗骨材をつめ，その空げきに特殊なモルタルを……
57	下から3	$=b$ ……の圧縮有効幅	$b=$ ……の有効幅
62	表2	0.3 mm ふるいにとどまる材料で比重2.0の液体に浮くもの 0.5	0.3 mm ふるいにとどまる材料で比重2.0の液体に浮くもの 0.5**
62	表2の注		(追加) **高炉スラグからつくつた砕砂には適用しない。
63	8	……等の有害量を含んでいてはならない。	……等の有害量を含んでいてはならない。特に耐火性を必要とする場合には，耐火的な粗骨材を用いなければならない。(追加)
64	表5	比重2.0の液体に浮くもの 1.0	比重2.0の液体に浮くもの 1.0**
72	表5の注		(追加) **高炉スラグからつくつた砕石には適用しない。
65	3	……に規定した許容応力度を用いてはならないから，……	……に規定した許容応力度をそのまま用いてはならないから，……
67	表6	気象作用がはげしくない……	気象作用がはげしくない……
〃	表6の注	*気象作用がはげしい場合……	*これらの場合……
68	19	絶対細骨材率および細骨材率	絶対細骨材率
〃	20	絶対細骨材率および細骨材率は，……	絶体細骨材率は，……
69	表8	絶体細骨材率 S/A(%)	絶体細骨材率 s/a(%)
〃	表8の注(3)	(3) 絶体細骨材率の代りに細骨材率を用いてもよい。	(3) 絶体細骨材率 (s/a) の代りに細骨材率 $\left(\frac{S}{S+G}\right)$ を用いてもよい。
〃	下から4	(2)……AE剤	(2)……AE剤溶液
70	2	……AE剤	……AE剤溶液
72	下から6	打上がり	打込み
73	下から10	約 75 cm の鉛直な吐き管を……	60 cm 以上の鉛直な漏斗管を……
74	5	1層の厚さを……	一層の高さを……
〃	7	締め固める層の厚さ，……	締め固める一層の高さ，……
78	7	鋼のせき板	鋼製せき板
〃	12～13	つなぎおよびすじかいを……	つなぎ材およびすじかいを……
80	2	表 10 の値に	表9の値に
〃	表の題目	表 10 型わくを取りはずしてよい時期のコンクリートの最小圧縮強度	表9型わくを取りはずしてよい時期のコンクリートの圧縮強度
〃	表 10	(1)(2)(3)(4)(5) (1)と(2)，(2)と(3)との間の区画線 (1)～(3)の文章	(1～5 の区分数をとる) (区画線をとる) (コンマを間に入れてつなげる)
82	12	コンクリートとを	コンクリートを
83	4	コンクリートの給熱を行う場合，	コンクリートに給熱する場合
89	11	構造物の設計図には，コンクリートの耐久性または水密性から定まる水セメント比，構造物の設計に用いた許容応力度，鉄筋の材質，構造物の設計において基準としたコンクリートの材令 28 日における圧縮強度 σ_{28}，粗骨材の最大寸法，設計荷重，設計責任者の所属ならびに氏名，設計年月日，等をあわせて明記しなければならない。	構造物の設計図には，設計荷重，構造物の設計に用いた許容応力度，鉄筋の材質，構造物の設計において基準としたコンクリートの材令 28 日における圧縮強度 σ_{28}，コンクリートの耐久性または水密性から定まる水セメント比，粗骨材の最大寸法，設計責任者の所属ならびに氏名設計年月日，等をあわせて明記しなければならない。
89	下から1	静的荷重として考え，……	静的荷重と考え，……
90	2	計算する	求める
〃	3	計算した	求めた
〃	23	……，表 11 の値を……	……，表 10 の値を……
〃	表	表 11	表 10
92	15～23	(b) 部材の…… $\tau=\frac{S_1}{b_0jd}=\frac{S_1}{b_0z}$ ……(2)	(b) 部材の…… $\tau=$ ……

ページ	行	旧	訂　　正
92	15～23	ここに，$S_1=S+\frac{M}{d}(\mp\tan\alpha\mp\tan\beta)$ $M=\cdots\cdots$ $d=\cdots\cdots$ $\alpha=\cdots\cdots$ $\beta=\cdots\cdots$ 曲げモーメントの絶対値が増すに従って，有効高さが増す場合には負号を，有効高さが減る場合には正号を用いる。	ここに，$S_1=S-\frac{M}{d}(\tan\alpha+\tan\beta)$ $M=\cdots\cdots$ $d=\cdots\cdots$ $\alpha=\cdots\cdots$ $\beta=\cdots\cdots$ α および β は曲げモーメントの絶体値が増すに従つて，部材上下面の傾きがそれぞれ有効高さを増す場合には正号を，有効高さを減ずる場合には負号とする。
93	13	ここに，S_1 は…… $S_1=S+\frac{M}{d}(\mp\tan\alpha\mp\tan\beta)$	ここに，S_1 は…… $S_1=S-\frac{M}{d}(\tan\alpha+\tan\beta)$
97	7	ここに，σ_{sa}＝鉄筋の許容応力度	ここに，σ_{sa}＝鉄筋の許容引張応力度
〃	10	u＝鉄筋1本の周長	u＝鉄筋1本の断面の周長
〃	18～22	(1) 一般に，引張鉄筋はその端にフックをつけて，コンクリートの圧縮部に定着しなければならない。しかし，異形丸鋼を引張鉄筋として用いる場合には，部材の固定端の引張鉄筋，フーチングの引張鉄筋の両端，等特に十分な定着が必要な鉄筋があるような重要な構造物を除き，フックをつけなくてもよい。	(1) 一般に，引張鉄筋はその端にフックをつけて，コンクリートの圧縮部に定着しなければならない。 異形丸鋼を引張鉄筋として用いる場合には，一般にフックをつけなくてもよい。ただし，部材の固定端の引張鉄筋，フーチングの引張鉄筋の両端，等で特に十分な定着が必要な場合にはフックをつけるものとする。
97～98	下から1～上1まで	……，鉄筋の全強をうけられる長さを支承中に……	……，鉄筋の全強をうけるのに十分な長さ支承中に……
98	13	(2) かぶりは……表 12 の値……	(2) かぶりは……表 11 の値
〃	表	表 12 ……	表 11 ……
99	下から3	水密打継目（標題）	水密構造の継目
100	14	ここに，$l=\cdots\cdots$ $l'=\cdots\cdots$ この距離が……	ここに，$l=\cdots\cdots$ $l'=\cdots\cdots$ l'が……
102	下から6	**……造られた……	**……つくられた
〃	下から3	一方の方向の支承が両端単純支承，両端固定支承および一端単純支承他端固定支承である場合には，……	一方の方向の支承が両端単純支承，両端固定支承または一端単純支承で他端固定支承の場合には，……
103	4	第1支点	第1内部支点
〃	25	ただし，短スパンと長スパンとの比が 1/2 以下の……	ただし，長スパンと短スパンとの比が2以上の
〃	28	(a) 等分布荷重 w を……	等分布荷重 w を……
103～104	下から1～上2まで	wに等しくなければならない。 正および負の曲げモーメントは，それぞれの分担荷重にたいして一方向版として計算する。	wに等しくなければならない。曲げモーメントおよびせん断力は，それぞれの方向の分担荷重にたいして一方向版として計算する。
〃	2	……計算する。版におこるねじり抵抗を考えれば，正のスパン曲げモーメントは，つぎの式によってこれを減らすことができる。	(3) (a) 正のスパン曲げモーメントは，版におこるねじり抵抗を考えて，つぎの式によつてこれを計算してよい。 （改行（3）を入れ文を改める）
107	6	……間隔とする。支承の奥行き……	……間隔とする。ただし，支承の奥行き……
108	2	……1/2 以下，または，はりの……	……1/2 以下，また，はりの……
〃	5	……15 倍以下，またスターラップの……	15 倍以下，スターラップの……
〃	下から7	3/5 以上とし，	3/5 以上，また
〃	下から7	用いるときは，直径……	用いるときは直径……
〃	下から4	版の配力鉄筋で版の上部にある……	版の配力鉄筋ではりの上部にある……
〃	下から2	（標題）140 条　T形ばりの突縁の圧縮有効幅	140 条　T形ばりの突縁の有効幅
〃	下から1	計算に用いるT形ばりの突縁の圧縮有効幅は……	T形ばりの計算に用いる突縁の有効幅は……
109	図	図 15 T形ばりの突縁の圧縮有効幅	図 15 T形ばりの突縁の有効幅

ページ	行	旧	訂正
110	23	正の最大曲げモーメント	正の最大スパン曲げモーメント
〃	下から2	3スパンの場合	3スパン以上の場合
111			図 16 (a) における b を d とする
112	2	(b) 柱の最小横寸法	(b) 有効断面の最小直径
〃	22	……，継手は横方向部材のある……	……，継手は横方向支持部材のある……
〃	26	……継手位置で通さなければならない。	……継手位置で通すか，しなければならない。
113	1	……しては計算に用いた……	……として計算に用いた……
114	下から8	ここに，σ_c= コンクリート断面の維圧縮応力度	ここに，σ_c=コンクリート断面の図心軸から距離yにある点の圧縮応力度……
115	1	$I_i=A_i$ の図心軸……	I_i=換算断面の図心軸……
〃	2	$e=A_i$ の図心軸……	e =換算断面の図心軸……
〃	3	$y=A_i$ の図心軸……	y =換算断面の図心軸
〃	10と11の間	……をこえない場合には (17) 式および (18) 式を用いてよい。 これらの場合に……	……をこえない場合には (17) 式の代りにつぎの式を用いてよい。 $\sigma_c=\frac{N}{A_i}\pm\left(\frac{Ne_x}{I_{iy}}x_1+\frac{Ne_y}{I_{ix}}y_1\right)$……(19)  (追加) 図 17 直角2方向の曲げモーメントをうける場合（図17および説明を追加） これらの場合に……
〃	下から1	間隔（図 17 参照）。	間隔（図 18 参照）。
〃	図	図 17	図 18
116	1	(3)……寸法は図 17 に……	(3)……寸法は図 18 に
〃	5	……計算してよい（図 18 参照）。	……計算してよい（図 19 参照）。
〃	図	図 18	図 19
〃	下から5	……に分布させる（図 19 参照）。	……に分布させる（図 20 参照）。
117	図	図 19	図 20
118	7	……取扱つてよい（図 20 参照）。	……取扱つてよい（図 21 参照）。
〃	図	図 20	図 21
〃	16	(b) 石工壁……との中間とする	(b) 石工壁……との中央とする。
〃	18	(c) 鋼柱……との中間とする。	(c) 鋼柱……との中央とする。
〃	23	……変化する面でも……	……変化する断面でも……
〃	25	(3)……断面（図 21 参照）。	(3)……断面（図 22 参照）。
119	図	図 21	図 22
〃	下から7	……底板の縁端との中間とする。	……底板の縁端との中央とする
〃	下から6以下	(2) 連結フーチングの横方向……（図 22 参照） (3) 連結フーチングにおける……	(2)連結フーチングにおける…… (3)連結フーチングの横方向……（図 23 参照） ……(2) と (3) を入れかえる
120	図	図 22	図 23
〃	下から1	(式)……(19)	(式)……(20)
121	8	……段形のフーチングでは (19) 式の……	……段形のフーチングでは (20) 式の……
〃	13	……つぎの (20) 式から	……つぎの (21) 式から
〃	14	(式)……(20)	(式)……(21)

ページ	行	旧	訂　　正
122	4	(標題) 158 条　設計および構造の細目	158 条　設計および構造細目
〃	7	……耐えるため，控え壁には十分に定着したスターラップ，またはタイバーを適当に配置しなければならない。前壁の下部……	……耐えるために心要な鉄筋を前壁および控壁に十分に定着しなければならない。前壁の下部……
123	6	(式)……(21)	(式)……(22)
〃	表	表 13	表 12
〃	表	表 14	表 13
〃	表 14	普通の丸鋼	丸鋼
124	2	(式)……(22)	(式)……(23)
〃	図	図 23	図 24
〃	4	……これを求めてよい (図 23 参照)。	……これを求めてよい (図 24 参照)。
〃	式	(a) (式)……(23) (b) (式)……(24)	(a) 式……(24) (b) 式……(25)
〃	下 4	……の場合，普通丸鋼に……	……の場合，丸鋼に……

コンクリート舗装標準示方書

ページ	行	旧	訂　　正
129	下から10	絶対細骨材率および細骨材率	絶対細骨材率
135	12	まだ固まらないコンクリートまたはモルタルにおいて，ブリージングに伴ない，その表面に浮び出て沈でんした微細な物質をいう。	ブリージングにともない，コンクリートまたはモルタルの表面に浮び出て沈でんした物質をいう。
135	下から 9	仕上げのやすさの程度	仕上げのたやすさの程度
137	下から 3	79条に示す	80条に示す
144	2	不純物の混入	不純物が混入
〃	下から 2	(3) 79条に従い	80条に従い
145	下から14,13	絶対細骨材率および細骨材率	絶対細骨材率
146	表	表 6 の S/A (注) (3) 絶対細骨材率の代りに細骨材率を	s/a 絶対細骨材率(s/a)の代りに細骨材率$\left(\frac{S}{S+G}\right)$を
〃	下から 8	水および AE 剤は，	水および AE 剤溶液は，
147			44条　レデー　ミクストコンクリートを入れるこのため以下 1 条ずつ下る。 44条　レデー　ミクストコンクリート (1) レデー　ミクストコンクリートを用いる場合には，JIS A 5308 (土木学会規準 44 章) によらなければならない。 (2) レデー　ミクストコンクリートを用いる場合には，コンクリートの打込みに支障のないよう，受取り時期その他について製造者と打ち合せをしなければならない。
147	下から 8	均等質で密な	均等質で密実な
148	1	(3) 型わくは	(3) 型わくに用いる材料は
149	下から 2	均等質で密で	均等質で密実で
150	7	(2)…… その下面が版の表面全体に……	(2) ……その下面全体が版の表面に……
〃	下から13,11,9,6,2	仕上げ機械	フイニッシャー
151	8	(1) ……施行計画	(1) ……施工計画
	14	(1) ……完全に絶縁	(1) ……完全に版が絶縁
〃	20	(3) 目地は，コンクリート版全幅に	(3) 目地は，舗装全幅に
152	5	縦横目地および	膨脹目地および
	5	半径 5～10 mm の	半径 5 mm 程度の

ダムコンクリート標準示方書

ページ	行	旧	訂正
167	12	まだ固まらないコンクリートまたはモルタルにおいて，ブリージングに伴ない，その表面に浮び出て沈でんした微細な物質をいう。	ブリージングに伴ない，コンクリートまたはモルタルの表面に浮び出て沈でんした物質をいう。
168	4	注入コンクリート	プレパックド　コンクリート
〃	4～5	特殊な粒度の粗骨材をつめ，これに特殊なモルタルを注入して……	まず，特定の粒度をもつ粗骨材をつめ，その空げきに特殊なモルタルを注入して……
169	6	……油，酸，アルカリ，塩類……	……油，酸，塩類
〃	表1,最下段	3～7	3～10
171	6～7		(4) は削除する。
172	下から9～10		(4) は削除する。
173	3	……適合したものでなければならない。	……適合したもので，特に品質のばらつきの少ないものでなければならない。
〃	下から 4～3	……温度が示方されているときは，骨材の温度が所要のものとなるように……	……温度がきめられているときは，その温度のコンクリートがえられるような骨材の温度とするように……
〃	最下行へ追加	(6)　骨材は氷雪の混入または凍結を防ぐため，適当な施設をしてこれを貯蔵しなければならない。	
175	下から 4	所要のウォーカビリチー，所要の品質のコンクリートがえられるよう……	所要のウォーカビリチーがえられる範囲内でなるべく少なくなるように……
176	表 6	右に示すように訂正する。	粗骨材の最大寸法 (mm) ／ 運搬締固めを終了したときの空気量 (%) 40 ／ 4.0 ± 1 80 ／ 3.5 ± 1 150 ／ 3.0 ± 1
〃	表 7	$\frac{S}{A}$	$\frac{s}{a}$
179	19～20	……コンクリートの配合から粗骨材を取り去ったものと同等とし，……	……コンクリート中のモルタルと同程度の配合とし，……
180	1	……完全な結合をはからなければならない	……十分入念に施工しなければならない。
181	下から 3	しかし，継目面に突起，モルタル……	しかし，継目グラウチングを行う収縮継目面に突起，モルタル……
〃	下から 2～1	これを除去し，新しく打ち込むコンクリートを害しないように注意しなければならない。	継目にグラウトがよく行きわたるように，これを除去しなければならない。
186	下から 14	冷却管は新しいコンクリート……	冷却管はコンクリートを……
187	4	グラウチングのための配管系統は，……	グラウチングのために必要なグラウト止め，配管系統等は，……
〃	5～6	正しくこれを設置し，グラウチングを行うまえに詰らせたり，破損したりしてはならない。	正しくこれを設置しなければならない。 グラウト止めは，特に水の漏れないように，また，グラウチングを行うまえにこれを破損しないように注意しなければならない。 配管系統は，グラウチングを行うまえにこれを詰らせたり，破損したりしてはならない。
〃	下から 7	……その他工事に便宜上	……その他工事の便宜上
188	下から 5	責任技術者の指示に従い，ミキサから排出されたときにとったコンクリートの……	責任技術者の指示に従い，コンクリートの……
188	下から 1	上記の値は予め設計の……	上記の値は設計の……

土木学会規準

ページ	行	旧	訂正
193	9	(圧力方法)	(水柱圧力方法)
251	下から 8	約 500 g	500 g
253	4	粗骨材	試料
262	下から 7	25 cc	2.5 cc